

小笠原小学校は**母校**です。



日本あるある

「あるある」つながりで、視野を広げて、日本人にとっては当たり前のことなのに海外では「不思議〜い」となる「日本あるある」をお届けします。でも、そんな日本って「素晴らしい」と思うのです。



はじめに、日本の学校「あるある」を

… 日本の学校はとっても清潔で衛生的（土足厳禁の文化・子どもが掃除をする習慣）

その1 上履きに履き替える

日本の学校は、校舎内に入るときに、上履きに履き替えます。これは、海外の人にとっては不思議の一つのようです。日本の「土足厳禁」の文化の表れです。家庭だけでなく、学校でも指導するルールです。さらに、トイレではトイレ用サンダルに履き替え、学校によっては体育館では体育館シューズに履き替える…、常に外履きて過ごす外国人には複雑過ぎるようです。



その2 子どもが学校を掃除する

日本の学校は、子どもたちが教室をはじめ、学校内を掃除します。自分の使ったもの（場所）は自分でキレイにするという習慣は、日本に浸透した文化の一つです。日本の学校では当たり前のように掃除をしますが、海外では子どもが学校の掃除をしない国がほとんどです。「子どもがかわいそう」「清掃員を雇えないのか」などという考えもあるようですが、日本に習って、日本のように学校教育に掃除を取り入れたいのだけれども、清掃員の仕事を奪ってしまうので、切り替えることができないという国もあるようです。

本校では「掃除も立派な授業」として取り組んでいます。掃除をすることから学ぶことはたくさんありますし、学級づくりの根幹にもなる取り組みです。私は子どもが学校の掃除をすることはとても大切だと思っています。



サッカーのロシアワールドカップのあと、サッカー日本代表のとった行動に世界が驚き、世界から称賛の声が上がりました。決勝トーナメント1回戦のオーバータイムで逆転され、準々決勝進出を逃したサッカー日本代表が、怒りや悔しさでいっぱいだったことは容易に想像できます。しかし、ロッカールームをまるで使用前のように清掃、整頓し、感謝のメモまで残していったのです。

昨年、日本で行われたラグビーワールドカップでも、日本人のマナーやおもてなしの心が話題になりました。日本人のサポーターが試合後に観客席のゴミ拾いをしていくという話題は様々なスポーツの様々な大会でも取り上げられています。同じ日本人として誇りに思いますし、うれしくなる話題です。こういう行いができる日本に生きるものとして、自分もこうありたいと思いますし、また、これからの日本を担う子どもたちにも受け継がれてほしいと思っています。

…いい話ですね。校長通信でも、そのうち、この内容をとり上げようと思いました。